

2017年度いばらき未来基金冠助成

「積水化成品基金」活動報告書

活動名	里山の保全整備と子どもたち参加の体験活動
団体名	特定非営利活動法人こが里山を守る会
この活動で取り組んだ地域の課題	所有者の高齢化・生活環境の変化等により、保全整備されない里山が増加、加えて産業廃棄物の不法投棄により樹木の生育環境の悪化及び里山としての景観が損なわれている。自然豊かな里山がゴミ捨て場に化しているため、里山の再生を図ることにより、市民の自然環境保全の認識と啓発に繋がる。
この活動の目的	子どもたち参加による保全活動を展開することにより、市民も身近な自然豊かな里山に関心を抱き、自然環境保全啓発に繋がる。また、子どもたちの体験活動が里山の景観と動植物の生育環境を守っていくことを期待し、取り組みました。
実施内容	会員の定例活動日として、毎月第2・3日曜日実施、(下刈・枯損木伐採・不法投棄ゴミの搬出)を実施。 子どもたちの活動は、園児1回(里山体験ドングリ拾い)・小学生4回(里山の生物調査・里山の恵み・植樹)体験活動・中学生4回(里山の立ち枯れ木調査・伐採・植樹・立ち枯れ木の発生要因と里山の樹種について出前講座実施する。計9回実施した。
申請書に記載した「評価指標」に対する、実施「結果」	5.1haの保全整備(下刈・徐間伐・ごみの搬出)を実施、子どもたち参加の体験活動は、里山の恵み体験(山栗拾い・植菌・植樹(八重桜50本・ソメイヨシノ桜100本)・立ち枯れ木伐採体験を実施した。
申請書に記載した「目的」に対して、生まれた「中長期的成果」	花の咲く樹木を植林した目的は、市民が身近な里山に関心を抱き、ふれあうことを目的に桜を植樹した。稲宮の森の保全着手時から既に300本植樹しており、桜山として景観が望める里山に変貌しつつある。
申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？	子どもたちの体験活動・市民参加の観察会・里山からの不法投棄ゴミの搬出等の活動が市民の関心を寄せることに繋がっている。 観察会の参加者の増加、子どもたちの体験活動の回数増の希望が寄せられている。
活動実施後の展望や新たに見えてきた地域課題	当里山は、樹木の老齢化が顕著であることと、保全整備等の手が加えられていなかったことにより、立ち枯れ木が多く発生していることにより、樹木の若返りを図る必要があるため、定期的に植林を図っていくことが課題である。
積水化成品工業へ一言	2年続けての助成ありがとうございました。 又、社員の皆様による整備活動を積極的に参加を頂き、感謝申し上げます。ご承知の通り、里山保全活動は、労力は無論、重機等の使用頻度が高く、資

